



諸聖神父の主日

(ニケア公会議でアリウス派と戦った聖師父たちを記憶)

冒頭 P3 <赤本 P1 >

司祭「父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今もいつも世々に…」に続いて

♪「アミン」

【大連禱】

【第一アンティフォン】小連禱

【第2 アンティフォン、神の独生の子】小連禱

【第3 アンティフォン=真福詞】

【聖入】「来たれ」

トロパリ、コンダク

P8 <赤本 P9-13>

主日6調「神使の軍現れしに」諸聖神父のコンダク、「今も」、昇天祭のコンダク

5 調

神使の軍汝の墓にあらわれしに、番兵死せる者の
シン シ グン ハカ バンペイ

ごとし、マリア墓に立ちて汝の潔よき体をたづねり
ハカ タ イサキ カラダ

汝は地獄にいざなわれずして地獄をとりこにし、
ジゴク ジゴク

生命を賜うて処女にあいたまえり、死より復活せし
イノチ タモ ショジョ

主や、光栄はなんじに帰す

光えいはちちと子と聖神に帰す

諸聖神父のコンダク 8調

諸使徒の宣伝と諸神父の定理とは

教かいのために唯一の教えを固めたり

か 斯く 教かいは 天上の神学が織りたる 真実のころもを着て

かみ 神の 教えの 大いなる 奥義を正しく解き、かつ 讃栄す

いまもいつも世-世-にアミン

昇天祭のコンダク 6調

爾は我等における 定制をなしおえて 地のものを

天に 合わせて 光栄のうちにのぼりたれども

ハリストス我等の かみよ、いづこよりも 離れざりき

乃ち別るるなく 留まりて 爾を愛する者に 呼ぶ

我 爾等とともにす 人の 爾等に 敵する なし

【主や敬虔なる者】【聖なる神】へ戻る



(句) 蓋、爾は凡そ我等に行いしことにおいて義なり

聖使徒行実の読み (20 : 16 ~ 18, 28 ~ 36)

謹みて聞くべし

彼の^か日、パウエルは、舟^{しゅうこう}行して、エフェスを過ぎんと定めたり。アシヤに久しく^{とどま}留らざらん爲なり。彼、能^{ため}すべくば、五旬節^{よく}の日に、イエルサリムに在らんと欲^あしたればなり。彼は、ミリトよりエフェスに人を^{つかわ}遣して、教會の長老等^{ちやうろうらめ}を召したり。彼等^{きた}が來りし時、之^{これ}に謂^いへり、

『爾等^{みづか}、自ら^{つつし}慎み、亦、全群^{またぜんぐん}を慎^{つつし}め。乃、聖神^{すなわちせいしん}、爾等^{そのうち}を其中に立て、
監督^{かんとく}と爲し、主、神^なが己^{おのれ}の血^{もつえ}を以て獲^{ほく}たる教會^{けだしわれ}を牧^わせしむ。蓋、我、知る。我が去^{のち}りし後、殘忍^{ざんにん}なる狼^{おおかみ}、群^{ぐん}を惜^{おし}まざる者は、爾等^{うちい}の中に入らん。爾等^{うち}の中よりも、
ひとびとおこ^{いざな}りて、門徒^{おのれ}を誘^{したが}ひ、己^{ため}に從^りはしめん爲に、理^{もと}に悖^{こと}る事^{かた}を語らん。故に、
警^{けいせい}醒^わして、我が三年間^{ちゆうや}、昼夜^た、絶^{もつ}えず、涙^{かくじん}を以て、爾等^{おし}、各人^{おも}を誨^{おも}へしを憶へ。
兄弟^{けいてい}よ、今、我、爾等^{われ}を、神、及び其恩^{かみ}寵^{およ}の言^{そのおんちゆう}、爾等^{ことば}を建て、爾等^たに凡^{およそ}の聖^{せい}せられし者^{うち}の中に嗣業^{しぎよう}を與^{あた}ふるを能^{よく}する者に、託^{たく}す。人の金銀^{われ}、衣服^{いま}は、我、未^{これ}だ、之^{むさぼ}を食^{むさぼ}らざりき。爾等^{みづか}、自ら^こ知る、此^わの我が手^{われ}は、我、及び我^{およ}と偕^{われ}に在^{とも}りし者^あの需^{もとめ}に供^{きよう}せし、を、凡^{およそ}の事^{こと}に於^{おい}て、我、爾等^{われ}に斯^かく勞^{ろう}して、柔弱^{よわきもの}者を扶^{たす}け、且^{かつ}、主^{きよ}イス^すスの言^{ことば}を憶^{おも}ふ可^べきを示^{しめ}せり。蓋、彼、自ら^{けだし}云^{みづか}へり、「與^いふるは、受^{あた}くるよりも更^うに^{さら}に
福^{さいわい}なり」と』。

言^いひ竟^{おわ}りて、彼、膝^{ひざ}を屈^{かが}めて、衆^{しゆう}と偕^{とも}に禱^{いの}れり。

アリルイヤ 1 調

誦経 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ



(句) 諸神の神、主は言を出して地を召す、日の出ずる所より、日の入る所に至る。

(句) 我の聖者、祭を以て我と約を結びし者を我が前に集めよ。

福音の読み

イオアン伝 (17 : 1 ~ 13)

か 彼の時、イスス、^{そのめ}其目を天に^あ挙げて^い曰へり、

「父よ、時、^{いた}至れり。爾の子を^{えい}榮せよ。爾の子も、爾を^{えい}榮せん^{ため}為なり。蓋、爾は、^{けだし}彼に、

^{およ}凡の^{にくたい}肉體の^{うえ}上の^{けん}権を^{あた}與へたり。彼が、^{およ}凡そ^{あた}爾の^{いのち}彼に^{あた}與へし^{ため}者に、永遠の生命を^{あた}與へん^{ため}為

なり。永遠の生命とは、^{いのち}即、^{すなわち}爾、^{どくいっ}獨一の^{まこと}眞の^{かみ}神、及び爾が^{つかわ}遣し、^{いすす}イスス・^{はりすとす}ハリストスを知

ること、^{これ}是なり。我、^{われ}已に、^{すで}爾を^ち地に^{えい}榮し、^{われ}爾が^{あた}我に^{おこな}與へて^{わざ}行はしむる^な事を成せり。今、爾、

父よ、^{われ}我をして、^あ爾に^{えい}在りて^う榮を^{すなわち}享けしめよ。即、^{そうせい}創世の^{さき}先に、^わ我が^{なんじ}爾に^{あた}在りて^{たま}有ちたる

^{えい}榮なり。爾が^{うち}世の中より^{われ}我に^{あた}與へし^{ひと}人人に、^{われ}我、^あ爾の名を^{あらわ}顕せり。彼等は、^{ぞく}爾に^{ぞく}属し、^{ぞく}爾、

彼等を、^{われ}我に^{あた}與へたり。彼等、^{ことば}爾の^{ことば}言を守れり。今、彼等は、^{およ}凡そ^{われ}爾が^{あた}我に^{あた}與へし者、皆、

爾よりする、^{けだし}を知れり。蓋、^{われ}我は、^{われ}爾が^{あた}我に^{ことば}與へし^{ことば}言を、^{あた}彼等に^{これ}與へたり。彼等、^う之を受け、

^{かつ}且、^{われ}我が^い爾より^{まこと}出でしを^{まこと}誠に^{われ}知り、又、^{われ}爾が^{つかわ}我を^{われ}遣し、^{われ}を^{ため}信ぜり。我は、^{ため}彼等の^{いの}為に^{いの}祈る。

^よ世の^{ため}為に^{いの}祈らず。乃、^{すなわち}爾が^{われ}我に^{あた}與へし^{ため}者の^{けだし}為なり、蓋、^{ぞく}彼等は^{ぞく}爾に^{およ}属す。凡そ^{われ}我に

^{ぞく}属する者は^{ぞく}爾に^{ぞく}属し、^{ぞく}爾に^{ぞく}属する者は、^{われ}我に^{ぞく}属す。我は、^{うち}彼等の中に^{えい}榮せられたり。我は、

^{これ}是より^よ世に^あ在らず、^よ彼等は^あ世に^{われ}在り。我、^ゆ爾に^ゆ往く。

聖なる父よ、^{われ}爾が^{あた}我に^よ與へし者は、^{これ}爾の名に^{これ}因りて^{これ}之を守りて、^{ごと}彼等を、^{いつ}我等の^{ごと}如く^{いつ}一と

^な為らしめよ。我、^{とも}彼等と^よ偕に^あ世に^よ在りし時、^よ爾の名に^よ因りて^{われ}彼等を守れり。爾が^{あた}我に^{あた}與へし者

は、^{われ}我、^{これ}之を守り、^{そのうち}其中、^{ひとり}一も^{ほろ}亡びず、^{ただ}惟、^{ちんりん}沈淪の子は^{ほろ}亡びたり、^{かな}聖書の^{いた}応ふを^{いた}致す。今、

^{われ}我、^ゆ爾に^ゆ往く、^{われ}我、^よ世に^あ在りて、^{これ}之を^い言ふ、^{おのれ}彼等が、^{うち}己の中に、^{われ}我の^{まった}全き^{よるこび}喜を^{たま}有たん

^{ため}為なり」。